

清友

No.148

2021年12月
(2021年12月14日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



新宿御苑冬枯れの
プラタナス並木

楽しかったね、来年も行きたいね

日帰りバスツアー「渋沢栄一史跡めぐり」

11月26日、3年ぶりのバスツアーは初の日帰り。「新1万円札の顔」渋沢栄一史跡めぐり」のはじまりはじまり。

3年ぶりのツアーにつつま

参加者は15人。池袋からツアースタート。車中で丹野副会長と折よく参加いただいた染自治労働本部委員長より挨拶、箱田幹事の行程説明、参加者の自己紹介、戸枝事務局長の渋沢栄一豆知識と車窓風景説明、そうこうしているにあつという間に花園IC、一般道に入ると「渋沢栄一の幟」がいたるところに…。

思ってたより面白かったじゃん

最初の見学先はJR深谷駅、次は「渋沢栄一記念館」、アンドロイドの渋沢栄一が講演結構面白い。渋沢栄一生地隣の麵屋忠兵衛で渋沢栄一が好んだ煮ぼうとうのランチ：山梨のぼうとうとは違いました。

渋沢栄一の生地「中の家」はさすが豪農、蔵が五つ！、晩年の姿のアンドロイドもいました。最後は渋沢栄一関連施設の「誠之堂・清風亭」見学、道の駅おかべで深谷ネギを買って帰宅の途につきました。

の希望を伺いました。全員から「楽しかった、次回も参加したい」(お世辞か?)と、旅行先の希望は、金沢八景ぶどう狩り、川越、館山等戦跡めぐりなど、来年はもっと多く参加いただけるように…。

ツアーは好評でした、来年も楽しみたいです

帰りの車中で軽く一杯、感想と次回ツアー



渋沢栄一記念館 / アンドロイド渋沢栄一
「道徳経済合一説」講演の後で



渋沢栄一生地「中の家」



渋沢栄一が好んだ
「煮ぼうとう」



晩年の渋沢栄一
(アンドロイド)

来年6月までの主な行事案内

春の学習交流会

福島原発汚染水海洋投入の問題点と福島の現在

3月15日(火)

講師：上澤千尋さん
(原子力資料情報室スタッフ)

- 13時15分 開会・会長挨拶
東京清掃より情勢報告
- 13時30分 講演開始
- 15時00分 懇親会開始
- 16時00分 懇親会終了



▼募集 1月号発送時に参加募集。

★新春の集い★

1月22日(土)

今年はコロナで中止しましたが、来春は是非、みんなで集まりたいものです。

- ▼時間 11時45分～14時
- ▼場所 飯田橋「焼鳥すいけん」
*新たな会場です。清掃会館そば、若い人中心で活気のある店です。
- ▼参加費 2,000円
*例年同様「長寿祝い」「開運ジャンケン大会」などのパフォーマンスも予定しています。
- ▼募集 1月7日までに連絡ください。

お花見ウォーキング

3月29日(火)

- ▼場所 小金井公園
- ▼実施方法 桜の木の下で…(武蔵小金井駅集合)
- ▼参加費 500円(予定)



春のフィールドワーク

5月下旬を予定

- ▼場所 増上寺と芝公園
- ▼実施方法 散策とランチ
- ▼参加費 詳細は検討中



第14回定期総会

6月10日(金)

コロナで、去年は一年延期、今年は「書面開催」にせざるをえませんでした。来年の総会は是非「対面開催」にしたいものです。



「新春の集い2020」(庄司会長挨拶のシーン)

2月10日(木) 演芸を楽しむ会

- ▼寄席 「国立演芸場」2月上旬
*12時30分現地集合
※開演時間13時～15時30分
出演7組のコンパクトな番組に
- ▼参加費 500円
(65歳未満の方も同額)
- ▼募集 1月27日までに連絡ください。



第2回 幹事会

6月までの行事計画、6月の定期総会へ向けた準備、会計科目新設と予算補正、幹事会への会計報告等検討

12月3日に開催した幹事会。専門部会で、2面記載の「6月までの行事計画」と、6月10日に予定している第14回定期総会へ向けた準備、会計予算の補正、会計報告を幹事会で行う改正等を確認しました。

予算科目新設&予算補正

従来、親睦等の行事は、当日、参加者より参加費を頂いて支払先に清算していたため、支出伝票には業者等への支払い総額から参加会費等を引いた「退職者会が実際に負担した金額」を記載し、予算もこれを前提に組み立てていました。

しかし、11月26日の「日帰りバスツアー」は、旅行業者への支払いが事後となったため、参加者より頂いた参加会費が業者への支払い日まで手元に残り、収入処理を行うことが必要になりました。

この後もこのようなケースがあると思われるので、会計予算の収入科目に「行事参加費」を新設して参加会費を計上、支出予算は支払い総額を計上することにしました。また、「新春の集い」の東京清掃本部や上部団体の祝金も「雑収入」に計上します。

- この措置に伴う会計予算補正額は、次のようになります。
- ▼行事参加費：18万円計上
- ▼雑収入：2万円増額
- ▼交流費：20万円増額

幹事会ごとに会計報告実施

10月の幹事会で旅費支払い方法を変更しましたが、その際、会計運営上のチェック方法変更が必要になることを見落としていました。もともと、幹事会に会計報告をしていなかったという問題点もありましたので、幹事会へ会計報告

を行うことにしました。

来年の定期総会へ向けて準備

第14回定期総会は来年の6月10日に開催します。総会で提案する予定の議案は、次のとおりです

- ① 活動方針
- ② 会計予算
- ③ 共済会員制度：自治退「安心総合共済」加入者限定の会員制度
- ④ オーバー傘寿会員制度：80歳以上の会員限定の制度
- ⑤ 役員選出要綱改正：現行の委員長経験者による「役員選考委員会」方式が立ち行かない現状を踏まえた改正

訃報

深谷幸孝さん逝去

職役員など、東京清掃だ

元東京清掃副中央執行委員長の深谷幸孝さんが、11月26日に亡くなりました。享年74歳でした。

深谷さんは、荒川支部の出身で、東京清掃青年部副部長、本部に出たからは、教宣部長・賃金部長、副委員長に就任し東京清掃の運動を実践的に支えました。また、自治労都庁

来年も「近況報告」を発行

来年も3月に「近況報告」を発行します。年明けにみなさんへ依頼文をお送りします。ご協力ください。



けでなく、都内の労働運動を牽引されました。

今年の夏頃電話を差し上げたときは、いつもと変わらない言い回しで、いろいろお話を聞かせていただいています。なので、このように突然のお別れを迎えることになるとは思いませんでした。謹んで故人のご冥福を祈ります。

都庁退連合 2021年学習会



11月18日、南部労政会館で東京都庁職員退職者連合会の学習会が開催されました。テーマは「コロナによる医療崩壊と都立病院の現状」、講師は、「都立病院の現状と独法化」を都庁職病院支部墨東病院分会書記長の田島弘志さん、「コロナ感染症による医療崩壊とその原因と結果」を甲府市議で全国労働安全衛生研究会代表の山田厚さんが行いました。

感じ、怖くて家へ帰れない組合員が続出した。医療関係者へのバッシングが広がり、病院忌避などが頻発、コロナより人が怖く、病院勤務者というだけで強い圧迫感を感じた。コロナが沈静化していないのに政府は7月10日にGOTOをスタート、12月14日に停止となった。この頃、ようやくコロナの何たるかが判り始めた。当時は本当に大変で、コ

都立病院の現状と独法化



都庁職病院支部墨東病院分会書記長 田島弘志さん

コロナと医療関係者の苦闘の経緯

コロナは20年3月、志村けんさんの死が社会変化の潮目になった。4月中旬、感染者が1万人になった頃から、医療関係者は強い不安を

コロナ棟拡大を都から強く要請されたが、一般患者を他へ移すことが必要なのに、民間病院が受け入れられないので、患者の転医ができず大変だった。また、コロナ患者の対応は一般患者の1.5倍必要なので、人手が足りなくなった。

20年12月、府中医療センターを改修しコロナ専門病院を開設、21年1月、広尾・荏原・豊島の3病院をコロナ重点医療機関にすると、小池知事が発表。助産師等は異動を求められ、退職する例が出ている。

独立法人化の動き加速

18年1月30日に都立病院経営委員会が「一般独立行政法人」化を答申した。

20年8月、独法化原案が、コロナで集会もできない時期に発表され、10月に「新しい人事制度」、21年3月に「人事制度原案」が示された。

公立病院の独法化は議会に定款が出された段階で条件整備に入らざるを得ないと考えていたが、21年9月13日、定

款が議会に上程、可決。独法化に反対の考えではあるが、条件整備が必要と思っている。

独立法人化の問題点

独法になると労組法適用になる。都庁職に残れるのかどうか。病院関係の組合員は4千3百人、都庁職は1万人、病院関係が抜けると都庁職は組織としてもたなくなる。

独法化により、賃下げが起きる。また、旧都立病院職員・旧公社病院職員・独法職員の3層構造になり、賃金水準も違うので団結に影響する。墨東の組合組織率は80%だが、公社病院は組織率は低い。

新卒者の組合加入率が低く、役員の高齢化も進んでいる。旧来型の運動では労働組合は消えてしまう。どういふ運動が必要か、考えるべきではないか。現状でも、都庁職は予算人員要求をできない。

共済は独法後も変わらない。会計年度任用職員16日勤務やパートの労働条件も交渉しているが、パートに組合員がないので難しい。私たちの闘いへの支援をお願いしたい。

コロナ感染症による医療崩壊、その原因と結果

危険な政治が始まっている

コロナのデータを隠している今の日本はファシズム的特徴が出ている。ウソと隠へい、デマを手段とし、アメで人気を取り、差別を煽る。コロナで現金給付はアメだ。

コロナ災害は人災

コロナのデータはいい加減、実数を全く反映していない。コロナのせいによる一般病死増加も隠されている。20年は老衰と他に分類されない死亡が、前年より2万2千人も増加している。ありえない数だ。自己責任・自己管理で過労死寸前の人が増え、女性の貧困が拡大し、自死が増えた。

医療削減政策により感染症に脆弱な社会に

80年代後期から医療資源削減が行われ、保健所45%・病床35万・感染症病床2万2千減った。医師も減り、50歳以上が半数。首都圏、大阪は医師、看護師、保健師、救急車数と

もにワースト状態だ。

コロナ用病床不足というが20年12月から21年8月までに病床を2万9千削減している。大坂維新は10年間で21病院を潰し、公衆衛生を削り、21年3月～8月に病床を234減らした。大阪は死亡率が高い危険な自治体だ。



全国労働安全衛生研究会代表 山田 厚さん

医療資源の削減が目的化され、地域医療構想でさらに病院を削減しようとしている。

コロナ禍の医療受診抑制を利用して、供給制限と需要抑制、我慢させて公的医療と社会保険を破壊しようとしている。

自治体病院解体の危険性

赤字を理由にバッシングし、自治体病院を潰している。

診療報酬は消費税を転嫁できないので、消費税が上がれば赤字は増える。地方交付税・国庫補助金を減額され、03年度から公立病院が赤字になるような制度がつけられた。公

立病院を解体し独法化すると、議会チエックができなくなり、公的医療の減衰につながる。

社会保障としての公的医療が解体されると、穴埋めに商品市場が形成される。民間病院、売薬や保険企業が増大し、国民一人当たりの出費が増えて実質的賃下げになり、貧富の格差が医療の格差になる。典型はアメリカ、医療水準は高いが、恩恵は富裕層のみ。

公的医療・社会保障を壊し、大企業の営利市場にすることが、生存権の破壊につながる。

高齢者お荷物論の危険性

生活保障バッシングで保護基準が切り下げられ、社会保障が後退したが、「高齢者お荷物論」により、高齢者福祉の破壊が進んでいる。高齢者の住民税負担は06年度に大幅に増加し、医療・介護で高齢者の負担が増大している。

アベ・スガ9年間で格差が拡大し、低年金のため、働き続けなければならぬ高齢者が増えた。孤独死が増加、19年には餓死2千人以上、暖房がなく凍えで2千人弱、熱中

症で千人死亡している。高齢者健保2割化は現役世代のためと説明していたが、実際には、公費と事業主負担の削減が目的だった。

軍事大国化を許さないために

岸田政権は防衛費のGDP 2%を目指している。現在世界9位だが、2%になると世界3位になる。海上保安庁機能も世界的には軍隊に区分される。防衛費を低くみせるため、日本は別にしていく。

コロナでの自衛隊の災害防止は実質なしだった。自衛隊保有の医療資源も一切出動していない。自衛隊病院の病床利用率は平均17%、都立病院は80%、聖域扱い。軍隊は国民のいのちを守らない。

日経は「敵基地攻撃のみでは不足」とまで主張するに至った。軍拡の財源は公務員削減と社会保障圧縮だ。歯止めが利かなくなる軍事大国化を許さないために、高齢者は現役世代を励まし、労働者の権利・賃金・いのちと健康向上の闘いを応援しよう。



来年は参議員選挙、自治労組織内候補
「鬼木まこと」さんの勝利を！



自治退都本部第32回定期総会

10月28日に田町交通ビルで開催され、岡田会長の挨拶に続き、来賓の染自治労都本部委員長、川端自治退本部事務局長、岸まき子参議院議員が挨拶しました。(川端さんの報告内容は下段に掲載)

総会の特徴的議論は、自治体に導入されている「会計年度任用職員」制度の問題でした。「会計年度任用職員」はほぼ従来的一般臨時職員ですが、一時金・通勤手当・時間外手当が支給されず。活動方針での議論は、練馬区職退と福祉退より、「会計年度任用職員

の労働条件改善が必要」「組織化できていない。取組みの強化を」等の訴えがあり、都本部の重点課題として取組みを進めることが確認されました。

役員は、体調に不安がある岡田会長等80歳定年の年齢を超えている三役の後任が決まらず、現行体制のままとし、後任の早期選出に努力することが確認されました。(丹野)

都庁退連合第19回定期総会

11月26日、都庁職会議室で開かれ、小林会長は「今年はコロナで事業も思うようにできなかつたが、11月18日に学習会を開催できたことは大変良かった。会員拡大が最大の課題、各単会も大変とは思いますが、前向きに取組んでほしい」と挨拶しました。

来賓の自治退人見会長は「女性の活動を進め、女性役員が4名になった。各県・単会も女性役員を増やしてほしい。来年は参院選、組織内候補『鬼木まこと』さんの勝利に向けてご協力を」と訴えました。

議事はつつがなく進み、役員改選に移りました。大崎副会長(中央市場)と山崎事務局次長(主税)が退任し、次の方が就任しました。(庄司)

- ★会長 小林民治さん(幣齋)
- ★副会長 中井陽子さん(福祉)
- ★副会長 前島国臣さん(主税)
- ★事務局長 関口広行さん(労働)
- ★事務局長 鈴木利明さん(実業)
- ★会計 近田太郎さん(病院)

世代間格差論の正体

10月28日の自治退都本部定期総会で、自治退川端事務局長は、「岸田政権になって、政府筋等から『世代間格差』論が流れてきている」と、12年6月の地公退ニュースを配り、「世代間格差論の正体」について報告しました。

最初に出たのは12年1月 無責任な学者の私的な文書

12年1月、学習院大学鈴木巨教授他3人による「今後、若い世代は負担より少ない給付しか期待できず、社会保障は損な制度」などとする私的文書が内閣府経済社会総合研究所から公表され、メディアが飛び追って流布された。

この文書は厚労省「社会保障教育推進検討会」により、事実としても研究方法でも誤りであると断じられている。

誰が世代間格差論を言うのか ↓ 事業者は常に発信する

売名のためにデマを流す研究者の論説に乗って、政治家、経済団体などの立場から発言されるが、特に事業者は、自

ら扶養することも扶養されることもない唯一の現役機能者として、また、社会保障の二分の一の負担を求められることを嫌い、社会的責任の回避を狙って「世代間格差論」を発信し続けている。

「肩車キャンペン」は比較対象を意図的にずらした論

世代間論者は、20〜65歳人口対65歳以上人口比が3対1(騎馬戦)から1対1(肩車)になり、「現役世代が過剰な負担を強いられるから高齢者への給付抑制を」という。社会保障で本質的に考慮すべきは、単純な年齢構成ではなく、就業者対非就業者の比率だが、ほぼ同じ率で推移している。全ての労働者の社会保険加入により就業者比率は高まる。

拡大一方の非正規雇用と 低年金層の増大が新たな問題

〈丹野注〉今後の問題点は、増大する非正規雇用、平均賃金の減少と全体の3分の1以上を占める300万円以下就業者の年金受給額の課題がある。

**協退
都学
習会**

東電刑事裁判と福島は今

11月20日、田町交通ビルで東京都退職者協議会（都労連対応の退職者組織）の学習会が開催されました。講師は福島原発告訴団長の武藤類子さんです。

なぜ裁判を起したか

あれほどの事故があったのに原発再稼働など原発政策は変わらないと痛感し、刑事訴



講師の武藤類子さん

訟を考えるに至った。検察は告訴せず、検察審議会を経てようやく裁判にたどり着いた。

東電いいなりの一審判決

政府の地震調査研究推進本部の発表を基に、東電は15・7mの津波予想を試算、社員は対策を企画・進言したが通らなかったと証言している。東電経営陣は大津波の危険を知らながら、赤字の拡大を恐れて対策を講じなかった。

44人死亡となった双葉病院の状況も証言された。5回も非難が中断した置き去り事件で、東電が対策をしなかった結果、多くのいのちが奪われた。

しかし、東京地裁は無罪判決。双葉病院はじめ被害の実態も無視、地震調査報告を「信頼にあたらず」と、国の機関の評価を否定、「対策をとると原発の運転が不可能になる」「絶対的安全は求められていなかった」というひどい判決だ。

福島原発の現状

10年経っても原子炉の中で

何が起きたのか解明されていない。ALPS（多核種除去装置）の排気フィルタが多数壊れていたり、廃棄物のコンテナが野放しで放射の漏れも起きている。廃炉作業では死亡事故も起きている。30〜40年の廃炉ロードマップが発表されたが、40年で終わるのか不明。

放射能再拡散の恐れ

政府は汚染水の海洋投入を40年かけて行うとしている。漁連、農業団体や福島の自治体の70%が反対を表明しているが、意見が反映されない。

まやがしの汚染土対策

ALPSでトリチウム以外は除去できているというが、ウソだ。海洋投入は環境破壊だ。汚染土は1400万トン発生、県外搬出の用途はたたない。汚染土を減らすための再生実験で農地に入れて花や野菜を栽培。今は覆土もしていない。

汚染された木を燃やすバイオ発電も検討されている。灰に放射能が凝縮し、危険だ。

心身の被害は深刻

266人が癌になったが、政府は事故由来ではないとの見解。県民調査以外でも27例。「みつけなくてもいい癌をみつける」論に基づく、検査縮小の考え方が出ているが、若い世代が声を上げ始めている。うつやPTSD、自死や孤独死も多く、10年経ったも心の傷は癒えていない。家を追われ、地域社会を破壊された。

事故がなかったかのように

20ミリベルトの基準は問題。その環境下で生活することになる。教育も後退している。危険性や事故の責任などが教えられていない。

「日本大震災・原子力災害伝承館」がつくられたが、反省と教訓を伝える姿勢が薄い。

戻らない人は切捨て

広告代理店主導で、放射能防衛思想を後退させており、TOKIOも一役かっている。避難者支援は後退してきている。

福島県は「福島イノベーションコースト構想」で戻らない人は切捨て、新しい人を受け入れる方針をとっている。

国家権力のウイシユマさん殺害糾弾！ 技能実習生制度を廃止しよう！

12月3日、全水道会館で「国家権力のウイシユマさん殺害糾弾！技能実習生制度の廃止を求める労働者・市民集会」が開かれました。講師は指宿昭一弁護士です。

在留外国人300万人時代

20年末現在、日本に在留する外国人は300万人、外国人労働者は200万人（5年間で64万人増）いる。日本では国民という言葉に外国籍の人は入らず、税金を払っていても国民向け給付から除外される。

ウイシユマさん死亡事件

ウイシユマさんは、英語教師を目指し来日した。日本語学校に入学したが、行かなくなり在留資格を喪失、同居男性からDVを受けて警察に出頭。名古屋入管に収容された。帰国希望から在留に転じると、入管の対応が一挙に悪化。体調が悪くなったが点滴すらせず飢餓状態になり、亡くな

る前日、意識混濁になっても救急車を呼ばず、血圧・脈拍が取れない状態になり、3月6日午後、救急車で病院へ連れられて行く途中で死亡した。ウイシユマさんの亡くなる前を記録したビデオの開示を求めた。当初非開示だったが、2時間に圧縮したものが遺族のみに開示された。遺族にとつて観るに耐えない映像で、2度目は弁護士も入った。

8月の法務省報告書はひどい内容だ。仮放免なしの判断は正しかったと開き直り、虐待、拷問の調査もせず、職員意識改革に矮小化している。

入管政策の根本的問題は何か

戦後の入管体制は、勝手に日本人にされ、勝手に日本人から外された在日朝鮮人・台湾人（旧植民地人）を徹底的に管理することから始まった。戦前の植民地人管理は特高が行っており、入管職員の多くは特高。日本にいる外国人

技能実習生制度は奴隷労働

技能実習生制度は、日本の技術を学び帰国後広めるという国際貢献を主旨としているが、実態は労働者として受け入れ、金が欲しいから来日する構造だ。入国者の95%がブローカーを介しており、多額の渡航前費用がかかり、借金を返すための労働となっている。費用は100万円といわれ、ベトナムの平均年収の4年分。権利主張の禁止が強要され、強制帰国される。暴力的脅迫が行われ、まさに奴隷だ。

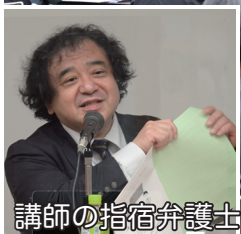
米国務省は「奴隷的環境」と指摘している。大企業も問題を認識してきているが、ブローカーが抵抗している。また、外国人労働者を差別する

日本の意識が根底にある。

外国人労働者差別の克服を

2月に強制送還を可能とする改悪入管法が提案された。ウイシユマさんの事件が報道され、若い人が多く集まって闘いが盛り上がり、廃案にさせた。戦後入管体制を根本から変える運動につなげたい。

一方、自民党は特定技能制度を技能実習制度化する等の改悪を検討している。ブローカーをなくすこと、そして、外国人差別の克服が必要だ。



講師の指宿弁護士

東京清掃 21 賃金確定

賃金確定闘争の結果

1. 一時金
 - * 期末手当の年間支給月数を 0.15 月引下げ（再任用職員 0.05 月）
2. 定年引上げに係る人事・給与制度
 - * 年度内解決に向け引き続き協議
3. 担当技能長職
 - * 各区の運用状況を労使で検証し課題の共有化を図る。
4. 再任用職員の職務の級の取扱い
 - * 職務の級は 60 歳前の級と「同等を基本」とする。（フルタイムに限り 22 年度より適用）
5. 会計年度任用職員の期末手当取扱い
 - * 来年度賃金確定期に協議
6. 不妊治療休暇に係る給与の取扱い
 - * 取得時間の給与支給。昇給・一時金・退職手当の不利益扱いなし。

今年の賃金確定は、人事委員会勧告からわずか1ヶ月しか闘争期間がないという厳しい状況の中で闘われました。勧告事項の一時金削減は阻止できませんでしたが、区長会側が繰返し主張してきた「現業賃金は高水準」という認識を表明させなかったこと、再任用職員の級を60歳前の「同等以下」から「同等基本」（フルタイム）に改めさせたこと、最大課題の定年延長に伴う60歳超の給与水準は、法律の7割規定では再任用の給与月額水準に達しない例が多いと反論し、交渉の余地を残したこ

と（年度内解決へ向け協議）等をもって、11月18日に妥結しました。ご苦勞様でした。



(写真は東京清掃提供)



岸田政権初の本格的な国会論戦が始まる12月6日の臨時国会開会日、「辺野古新基地建設反対! 敵基地攻撃能力保有反対!」等をスローガンに、国会議員会館前集會が開かれました。

主催者は、「コロナと経済立て直しを理由に35兆円もの補正予算が計上されたが、大企業へのバラマキ予算だ。特に問題なのは8千億円の防衛費予算、これにより今年度の防衛費はGDP 1%を超える。中国との緊張をおおって軍事強国化を図ることとは許せない。」と訴えました。

72回目の19日行動が11月19日、国会議員会館前で行われました。総選挙では、市民と野党の共同の力を十分には発揮できませんでしたが、「石原伸晃を破った東京8区などの例を分析し、共同の手法をさらに成熟させ」、来年の参議員選挙に向け、立憲主義、民主主義を立て直す取り組みの強化が呼びかけられました。

オンラインで参加したオール沖縄から、「辺野古の埋立てに遺骨が混じった土砂を使うな、平和といのちと人権を守る闘いの強化を」との訴えがありました。

清掃退職者会の2021年



1月の「新春の集い」は中止



定期総会は「書面開催」に変更



3月に予定していた「演芸を楽しむ会」は中止



学習会も懇親会も中止に



3月に予定していたお花見は中止

コロナ禍により、昨年3月以降今年の9月まで退職者会の行事は中止を余儀なくされました。その状況下でも、感染対策に気を付けつつ機関会議をもち、機関紙を毎月発行してつながりを保ってきました。



佃小橋にて

10月20日、昨年2月以来1年7月ぶりの行事「佃・月島探訪ともんじゃ」を16人参加で開催。「楽しかった」という感想が寄せられました。やっぱり、集まるのはいいね。



もんじゃランチ



渋沢栄一生地「中の家」

11月26日、初めての日帰りバスツアー「渋沢栄一史跡めぐり」に15人参加。渋沢栄一は所詮資本家ですが、見学してみて、三菱や三井よりマシだったのかと思えました。百聞は一見ですね。参加した方々も楽しそうでした。やってよかったですね。

★コロナ禍により、1年7ヶ月もの間行事を行えませんでした。10月からようやく行事の再開にこぎつけました。来年はみなさんともっとお会いできますように。

コロナ禍を奇貨として資本が攻撃を強めた一年だったように思われます。闘っている人たちを応援する立場で、集会・行動へ、感染防止に気を付けつつ積極的に関わりました。



2・19けんり春闘・経団連前行動 (女性たちの経団連抗議行動)



3・25韓国サンケン解散・解雇撤回!東京事業所前抗議行動



3・27さようなら原発首都圏集会



6・12米軍横田基地撤去!オスプレイ配備反対!集会とデモ



9・19今こそ本物の政権交代を!国会正門前行動



10・29狭山事件の再審を求める市民集会